



奇說排悶錄前集

六

特別
21
2460
6





四  
尾定

21  
2460  
12-6

奇說排門録卷之六

琦行之部

目錄

龔翊

張復

蘇門三賢

劉以平

韓擘

張二

亞儘

非門録卷之六



趙遜

安成七

徐妙錦

萬義顯

沈雲英

賣腐人女

益都人妾

合十四種

奇說排門録卷之六

琦行之部

龔翊

六樹園翁 譯

龔翊字八大章。崑山名地の人。金陵名地に住せり。年十七。金川門の

卒とす。永樂帝の時。靖難の兵至。時王勳將。并李

景隆將。門を閉と出迎。降参も。翊拒ぐ力る。声をあげて大に哭く。其

場を立退さ。故郷に還り。諸生の教授を業とす。貧乏安んず。学を好み

る人。宣徳の比。周忱其地の巡撫。翊を薦。んと云々。時翊答て

曰。翊今仕へん。義に於て妨る。然も共若仕へる。先年城門の勤哭の偽は

まらん。夏を恐ると云々。弊は仕へむ。田三十畝あり。自ら耕して食ひ八



十餘歳ふして卒す。門人私に安節先生とぞ謚し爲。

張復

張復字の子遠。休寧名地の人。幼く戎家の僕。學を好む。黄梅瞿九思と云人。又從ひ。性命の奥を極め。黄列ゆと學を講じける。黄列の人。拳と云。毫を尊ひ。張夫子とぞ呼ぶ。ある時瞿九思。寬を言ふ。是にて。獄に入らば。張復。徐孺子と共に京師に至る。鳳閣の下。上書し。其罪を免る。成。其時。首輔張居正。張復が名を貸及。其家。招れ。物語。仕官。其。云。是。け。は。從。ひ。と。遂。古。郷。歸。再。古。主。の。家。僕。と。成。叔。第。屋。を。築。免。自。耕。母。を。養。ひ。居。る。嬰。下。語。四。卷。孝。經。本。則。一。卷。小。兒。語。一。卷。を。著。し。つ。り。郷。人。其。有。道。者。を。知。る。者。あ。り。邑。の。令。丁。心。

卷。其。村。に。至。り。張。夫。子。の。居。い。づ。と。訪。け。共。知。人。を。縉。紳。の。あ。る。人。を。た。の。ま。く。あ。わ。せ。ら。る。漸。あ。る。者。の。云。へ。る。某。の。僕。久。く。楚。地。に。居。る。歸。り。後。又。其。主。に。仕。あ。る。者。あ。り。其。者。姓。は。張。あ。り。り。此。者。あ。る。張。夫。子。と。云。人。に。ね。し。と。ぞ。答。へ。る。其。僕。と。い。ふ。者。則。張。復。の。と。ぞ。云。ふ。縣。令。あ。る。縉。紳。と。同。く。其。家。に。往。り。張。復。を。拜。し。皇。山。を。繞。り。逃。れ。避。る。り。令。に。空。く。其。堂。ゆ。と。四。拜。し。と。去。る。郷。人。そ。よ。り。張。復。が。道。を。抱。き。義。を。好。む。然。る。賤。に。僕。隸。の。列。に。安。ん。ど。居。る。を。重。ん。ど。下。賤。の。人。ゆ。を。遇。せ。り。張。復。に。終。此。地。に。終。下。今。亦。至。り。黄。列。の。臨。坪。鎮。地。に。張。夫。子。の。祠。あ。り。蘇。門。三。賢。

張果中字の干度。容城名地の人。少時鹿善繼と云人の從ひ。學

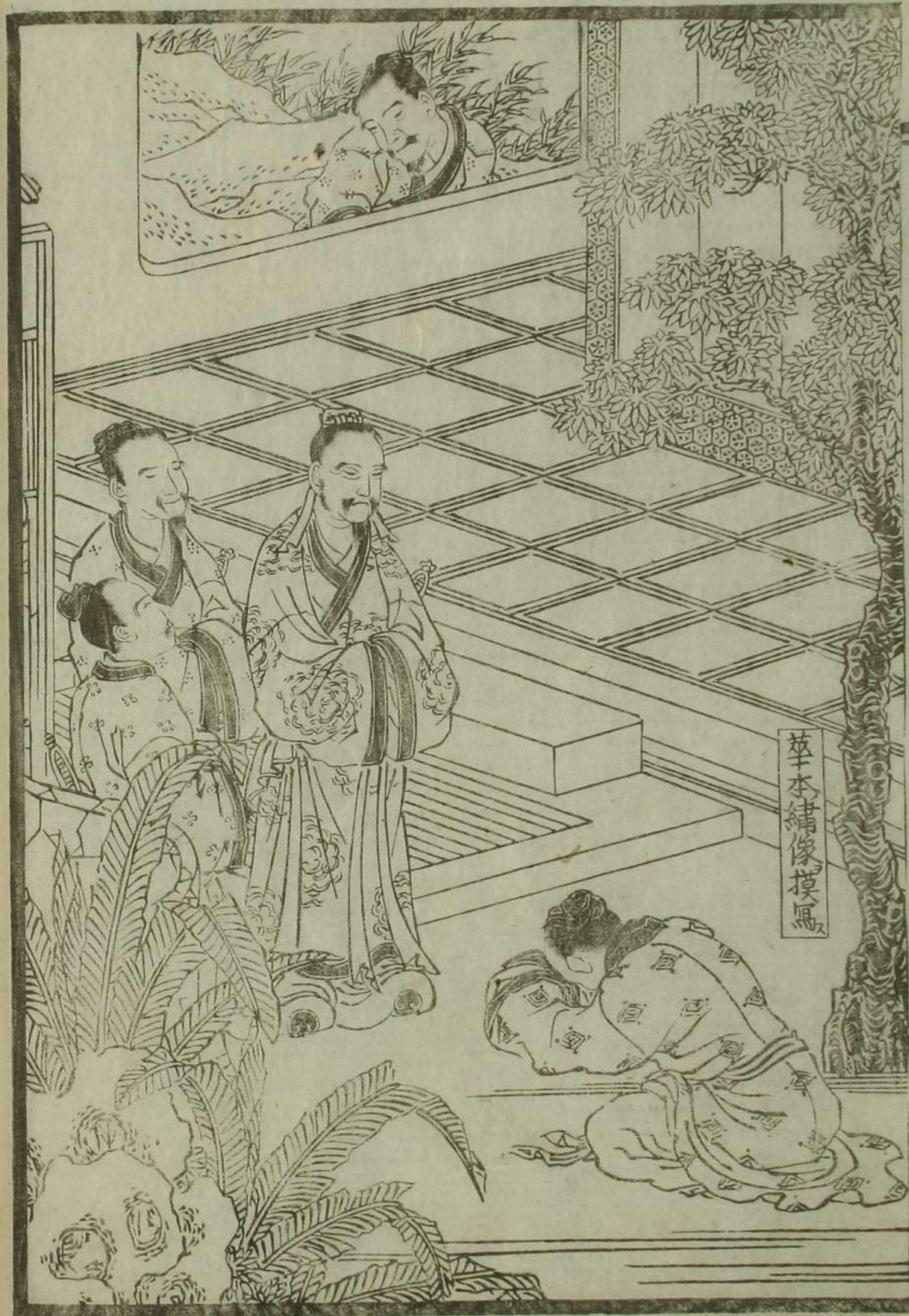
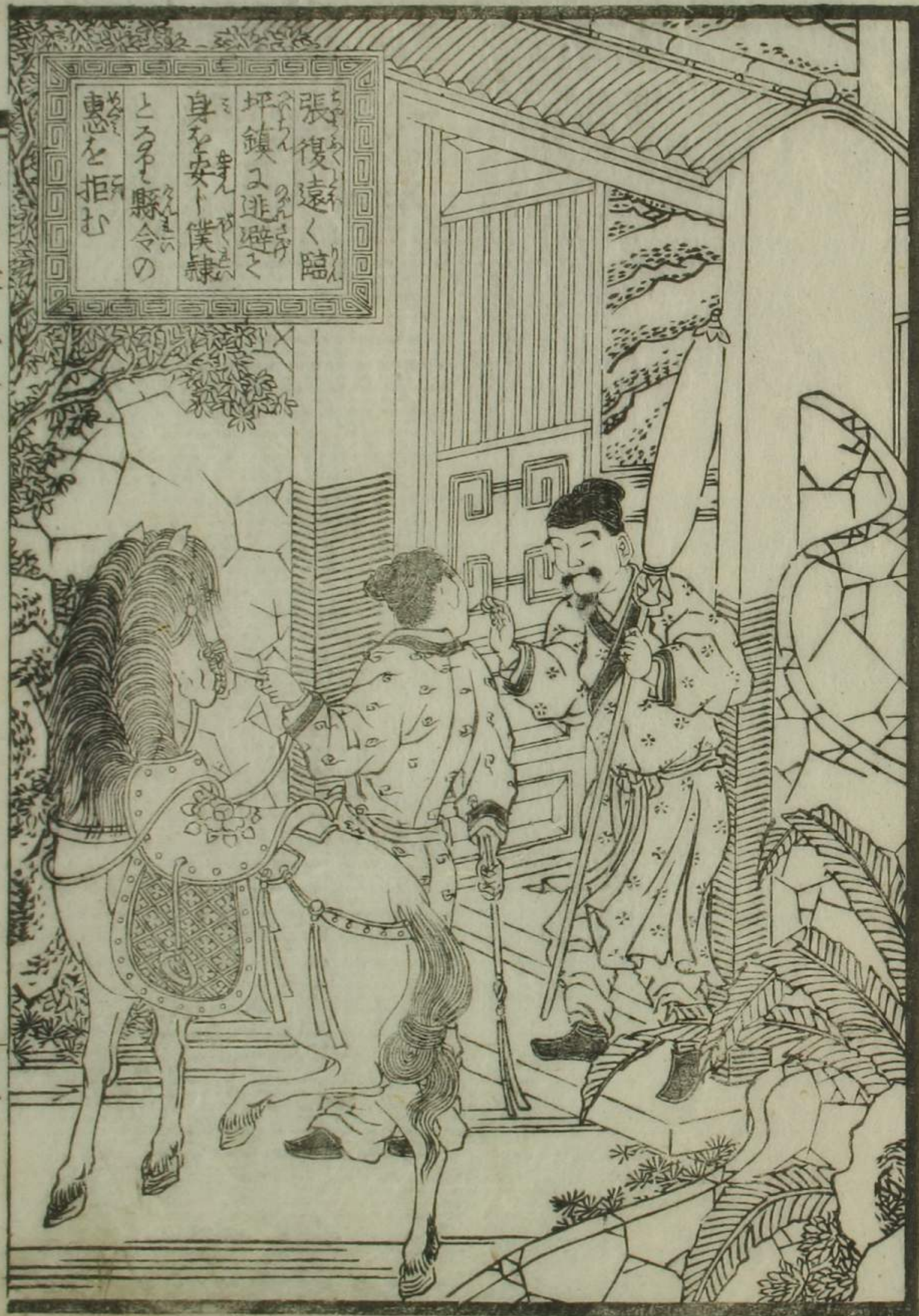


びる。後左淳邱。魏廓園と云賢者の官官禁裏の側のこの難ふむ  
 都みやこも召よし向むかへし。時とき皆張みなが家いへを宿やどめてし。其その後張のちの孫そん微み  
 君きみの後のちひと蘇その門もんの入り。遠とほく世よを避さげ隠かくまて。此この地ちゆと終はつまり。夏なつ峰みね村むら  
の村北きた原はらの蘇その井いの微み君きみ其その傳でんを作つくる。同どう時じの彭ほう了りょう凡ぼんと云い入い蠡い縣けん初はつの入り。  
 舊ふるも諸しよ生せいの入り。後のち河か朔さく地ちの來きたり。微み君きみは後のちひと居ゐる。此このまの  
 人ひと粟あはを與あづかす受うけむ。竟つひの嘯せう臺たいの名なの傍そばに死しし。微み君きみ其その墓ぼの餓が  
 夫あつ墓ぼと題いし。又また理り壘れい和わ字じの寒かん石せきと云いへる。西せい華か地ちの入り。本ほん姓せいの李り  
 あり。鳳ほう賊ぞく李り自じ成せいと同どう姓せいあるを恥はぢく。理りと改かむる。詩し文ぶん若じやく于よあり  
 亂らんを經へて皆みな散さん失しつぬ。微み君きみ西せい華かの左さ令れいが書かを貽おこす。理りが老らう母ぼ幼よう  
 孫そんを恤あはれ振まり。理りを稱たへ。魯ろ仲ちゆう連れん賢けん者しやく以後いご一いつ入いと云いふ。

劉以平

劉りう以い平へい字しへ近きん塘たうと云い人ひと猗い氏し地ちの産え同どう邑いの関かん氏しの女むすめを聘へいし。未い引ひ  
 取とる其その中ちゆうの女むすめ病やまひが來きたる。廢くわ人じんある。故ゆゑ已やむるを得えぬ。竊ひそか次つぎの女むすめ  
 をそり久ひさ遣やす。合あ色しきの夜よ以い平へい女むすめの病やまひる容ようを死しを恠あはれ。媒まひは尋たづねら  
 有あり。有あのまゝ小こ裕よと云い。以い平へい悵たうたる。思おもはく日ひなり。吾われ聘へいせし。女むすめの病やまひ  
 死しす。棄する。不ふ義ぎ也なり。且かつ嫁よめし。えざる事ことを悲かなみ。命いのちのほろろん。是これも量たかす  
 然しかし。次つぎ女むすめ已やむ我家いへに來きたる。還かへる。道みち理りある。是これは弟あに以い  
 寛かんが妻つまとまて。と曰いふ。止とどめ置かき更さらに姉あね女むすめを迎むかへり。姉あねを果はつし。嫁よめし。得え  
 ざるを悲かなむ。自みづか害がいせん。居ゐる。以い平へいの迎むかへる。嬉うれしく思おもはる。故ゆゑも  
 病やまひも程ほどなく癒いふ。兄あに弟あに同日どうじつに婚こん禮れいをす。後のち萬まん曆れき号ごう庚かう申しんの年としに。







以平進士とありぬ。

韓擘

項城の韓擘と云人戚氏の女を聘し、多るが我程もあつて其女盲目とあり  
 多る女の父母の命を韓擘少年より文を能せむと定て行末常並の人よ  
 あり。然るも自女を與へて婦とせしめんと其不可あり。所産婚を辭  
 と女生涯家終らせんと。多る定め其由を韓が家言遣はす。韓擘が父  
 母の言をこせる如くはせんと。多るいけ共韓擘聽む。遂に親迎し多る戚氏  
 を得て。美婢を擇と。勝女とて遺はす。韓擘曰美色をこころ心動  
 く人情のかる美女を止むを夫婦の好を全くせざる端とて其婢を直に  
 還しけり。後韓擘壬子の年。御選はる。教諭の官学校の役名とあり。婦を

推考と借み行と。始終甚睦あり。豫列の八其篤行を稱し。宋の

劉廷式復此世を見えたりとを言け。

張二

巧者張二と云者。何國の人と云。度定る。善水中入。又能一月も食へど  
 しく居る。其の上飛走甚捷ありけり。嘉靖甲寅の年。日本  
 の海賊の乱。太守の催。兵卒とあり。利器を持。水入敵の舟  
 底を撃。舟を沈め。或る敵陣。忍入。首を取。太守銀牌を與へ  
 と。擣へ共受け。酒を與へ。則受。敵退。後其功を論。百戸  
 賜。金。不當。依。郡縣。其相當の章服を授け。皆辭し  
 と受け。舊の如く巧者とあり。嶽廟の中。臥し。平常少。愁る



色あつりたる。其始如何なる人歟。わりのるる。斯る大難を解た大功を立  
く富貴を辞せし。昔の魯仲連が行事よく似たる人あり。

亞儘

亞儘と云者、廣東增城縣の獄卒。性質朴。刑あつて萬曆年  
戊午の歳の暮。囚人五十餘人聚て居るを乞ふ。亞儘何故ぞと  
問け。囚對て。新歲旺。近づきぬ。邑の者共。父母妻子。聚て喜ぶ。い  
らん。我等。此獄中。居る。還るを得ざる。故に悲あり。と云け。亞  
儘首を傾け。暫思案。居るがふ。囚人等。向ひ云。其の安き  
事あり。但汝等。我の義理を忘るる。あつて。云々。囚皆怪。其故を  
問ふ。亞儘曰。我今兩等。暇を乞ふ。還せし。正月二日。皆悉獄へ歸す。

來て。必約の違ある。我私に兩等を縦。其罪死を免。と云  
り。此中入り。も亦る者あり。我死罪に陥らんとす。況や  
悉く返るるを。然れども。今日。緩令等を乞ふ。置て。家へ還さとも  
若我壽命盡む。必死せむ。畢竟如何。死するも。同事。一。快死  
るを。あつて。死せんと。悉く。家へ還。明年正月  
二日。囚人皆悉歸て來る。籍を叩く。名を呼改。一人も違。つら  
けり。亞儘掌を打く。大に笑ふ。善哉と云畢。其や。獄坐して死する  
囚人皆哭。拜して。其體を沐浴。と。際をぬり。ぞ収めたる。此の縣令は  
也。今。令。巡按御史。言。上げ。朝廷へ達。其縣の獄神と云。あ  
ける。今。至る。祠。疾病疫癘の類。禱。必驗あり。



あらざるもの。

趙遜

順治<sup>羊</sup>の初<sup>羊</sup>京都<sup>羊</sup>の趙遜<sup>羊</sup>と云者<sup>羊</sup>ありて水を賣<sup>羊</sup>を業<sup>羊</sup>とせし廿<sup>羊</sup>歳<sup>羊</sup>餘<sup>羊</sup>ありて  
 父母<sup>羊</sup>あり。妻<sup>羊</sup>もあり。朋友<sup>羊</sup>共<sup>羊</sup>各<sup>羊</sup>助<sup>羊</sup>力<sup>羊</sup>あり。婦<sup>羊</sup>を求<sup>羊</sup>む。入市<sup>羊</sup>中<sup>羊</sup>に女<sup>羊</sup>二人  
 を銀<sup>羊</sup>二百<sup>羊</sup>兩<sup>羊</sup>買<sup>羊</sup>來<sup>羊</sup>。叔<sup>羊</sup>合<sup>羊</sup>番<sup>羊</sup>をよむ。時<sup>羊</sup>面<sup>羊</sup>蒙<sup>羊</sup>り。帕<sup>羊</sup>を取<sup>羊</sup>去<sup>羊</sup>けし。ハ  
 白<sup>羊</sup>髮<sup>羊</sup>の老<sup>羊</sup>母<sup>羊</sup>あり。有<sup>羊</sup>り。趙遜<sup>羊</sup>興<sup>羊</sup>あり。直<sup>羊</sup>に云<sup>羊</sup>。五<sup>羊</sup>口<sup>羊</sup>少<sup>羊</sup>年<sup>羊</sup>を  
 以<sup>羊</sup>て老<sup>羊</sup>嫗<sup>羊</sup>を婦<sup>羊</sup>とせし。るものいふ。あるん。さうを吾<sup>羊</sup>母<sup>羊</sup>とせし。事<sup>羊</sup>へん。勝<sup>羊</sup>の  
 世<sup>羊</sup>話<sup>羊</sup>を。玉<sup>羊</sup>の。と云。老<sup>羊</sup>嫗<sup>羊</sup>を。許<sup>羊</sup>容<sup>羊</sup>。斯<sup>羊</sup>に。數<sup>羊</sup>日<sup>羊</sup>  
 を経<sup>羊</sup>る。此<sup>羊</sup>嫗<sup>羊</sup>を。甚<sup>羊</sup>殷<sup>羊</sup>勤<sup>羊</sup>あり。嫗<sup>羊</sup>感<sup>羊</sup>。曰<sup>羊</sup>。女<sup>羊</sup>朋友<sup>羊</sup>の助  
 む。依<sup>羊</sup>て妻<sup>羊</sup>を求<sup>羊</sup>めんと。不<sup>羊</sup>幸<sup>羊</sup>あり。我<sup>羊</sup>を買<sup>羊</sup>ひ。財<sup>羊</sup>をも。妻<sup>羊</sup>をも。皆<sup>羊</sup>失<sup>羊</sup>へん。吾<sup>羊</sup>が

みる。珠<sup>羊</sup>あり。是<sup>羊</sup>を以<sup>羊</sup>て再<sup>羊</sup>び妻<sup>羊</sup>を求<sup>羊</sup>む。帯<sup>羊</sup>の中<sup>羊</sup>に縫<sup>羊</sup>置<sup>羊</sup>。  
 珠<sup>羊</sup>を。與<sup>羊</sup>へ。銀<sup>羊</sup>二百<sup>羊</sup>目<sup>羊</sup>易<sup>羊</sup>得<sup>羊</sup>。又<sup>羊</sup>市<sup>羊</sup>に往<sup>羊</sup>て。女<sup>羊</sup>一人<sup>羊</sup>買<sup>羊</sup>來<sup>羊</sup>。  
 此<sup>羊</sup>女<sup>羊</sup>老<sup>羊</sup>嫗<sup>羊</sup>を。一<sup>羊</sup>目<sup>羊</sup>とせし。大<sup>羊</sup>哭<sup>羊</sup>。遂<sup>羊</sup>怪<sup>羊</sup>。尋<sup>羊</sup>問<sup>羊</sup>へ。即<sup>羊</sup>其<sup>羊</sup>嫗<sup>羊</sup>が女<sup>羊</sup>あり。  
 世<sup>羊</sup>の代<sup>羊</sup>り。明<sup>羊</sup>立<sup>羊</sup>び。今<sup>羊</sup>の。離<sup>羊</sup>散<sup>羊</sup>せし。後<sup>羊</sup>各<sup>羊</sup>所<sup>羊</sup>に流<sup>羊</sup>浪<sup>羊</sup>し。久<sup>羊</sup>く逢<sup>羊</sup>  
 ざる。此<sup>羊</sup>家<sup>羊</sup>に。始<sup>羊</sup>て相<sup>羊</sup>見<sup>羊</sup>る。嫗<sup>羊</sup>の。地<sup>羊</sup>名<sup>羊</sup>あり。舊<sup>羊</sup>死<sup>羊</sup>仕<sup>羊</sup>官<sup>羊</sup>の家<sup>羊</sup>あり。  
 甚<sup>羊</sup>富<sup>羊</sup>に榮<sup>羊</sup>え。男<sup>羊</sup>子<sup>羊</sup>二<sup>羊</sup>人<sup>羊</sup>有<sup>羊</sup>り。兵<sup>羊</sup>乱<sup>羊</sup>あり。斯<sup>羊</sup>に。成<sup>羊</sup>る。今<sup>羊</sup>も  
 母子<sup>羊</sup>相<sup>羊</sup>取<sup>羊</sup>り。故<sup>羊</sup>郷<sup>羊</sup>に歸<sup>羊</sup>る。藏<sup>羊</sup>る。玉<sup>羊</sup>を取<sup>羊</sup>出<sup>羊</sup>し。猶<sup>羊</sup>百<sup>羊</sup>餘<sup>羊</sup>  
 顆<sup>羊</sup>あり。悉<sup>羊</sup>賣<sup>羊</sup>て。路<sup>羊</sup>費<sup>羊</sup>あり。嫗<sup>羊</sup>并<sup>羊</sup>夫婦<sup>羊</sup>打<sup>羊</sup>連<sup>羊</sup>て。家<sup>羊</sup>に歸<sup>羊</sup>り。二<sup>羊</sup>人<sup>羊</sup>の男  
 子<sup>羊</sup>出<sup>羊</sup>迎<sup>羊</sup>へ。思<sup>羊</sup>ひ。大<sup>羊</sup>喜<sup>羊</sup>び。家<sup>羊</sup>財<sup>羊</sup>を。分<sup>羊</sup>ち。二人<sup>羊</sup>の男  
 子<sup>羊</sup>二<sup>羊</sup>つづ。與<sup>羊</sup>へ。今<sup>羊</sup>の趙<sup>羊</sup>遜<sup>羊</sup>夫婦<sup>羊</sup>。富<sup>羊</sup>人と。成<sup>羊</sup>夫婦<sup>羊</sup>睦<sup>羊</sup>く



一生を過しつるにあはむ。

安成

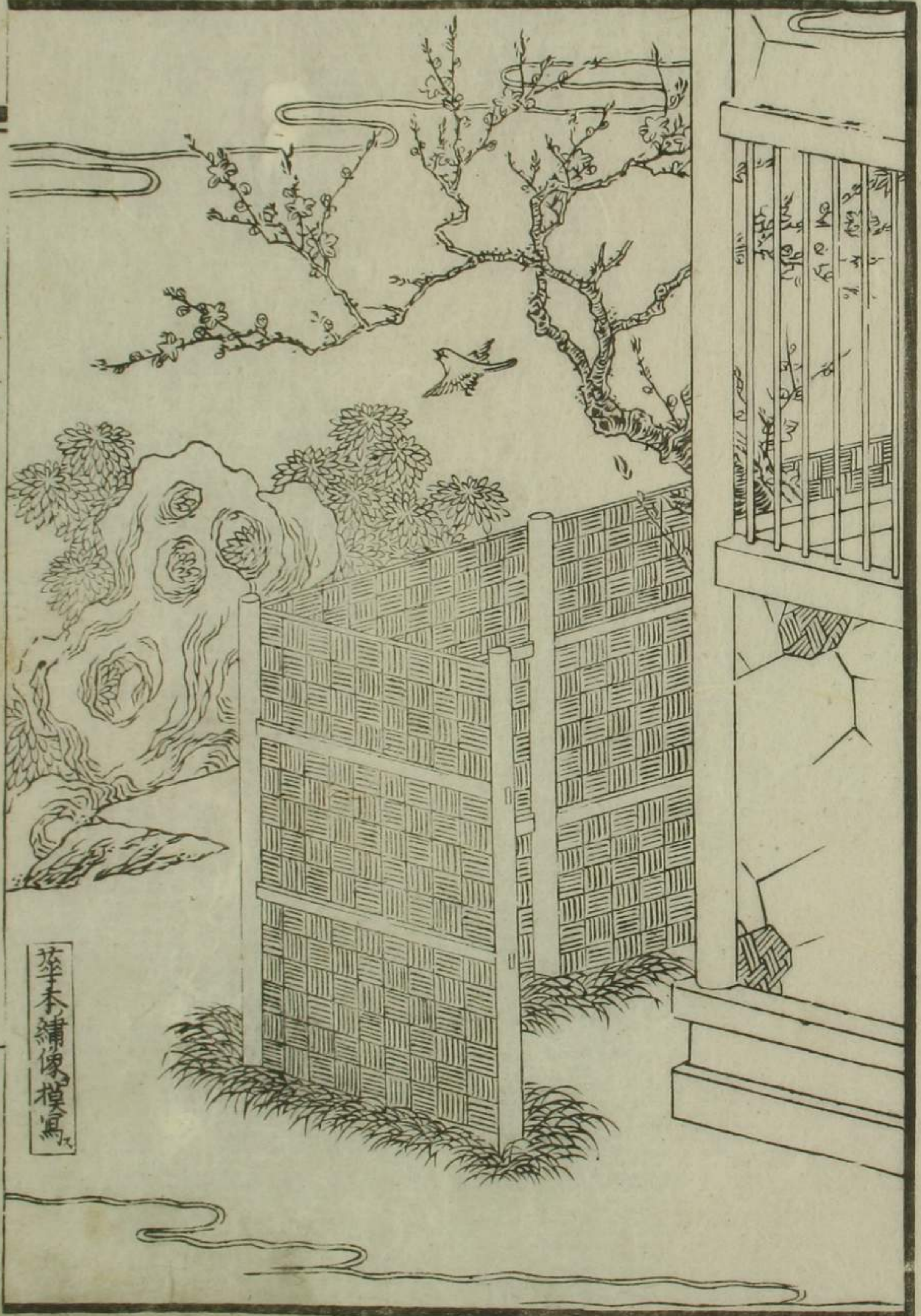
吉列の安成地。名ふ人あり。項の下大なる瘡あり。其姓名を知る者あり。乞  
入るもとも生得施を好む。貧乏者あり。己が乞ふ米錢を與へり。若恥く  
受ざる者あり。其殊ぬ。乞ふ時を伺ふ。米を其家持往と預け置き。終ぬ取  
み行む。乞ふをぬ。其地一人の婆婦あり。女あり。未なるの能へむ。彼乞人  
此を見く。夜薪を荷く。其門口に置くと歸す。終ぬ人亦悟らざる。其里の  
小路あり。橋あり。損壞あり。此乞人土を荷ひ運ぶ。乞人  
一入り修復し。故郷人多く其義を感ず。此人一度物を乞得る  
家の其年一とせ行事あり。常々人云ふ。我先代に富豪あり。金錢

を人ぬ貸く。利息を取らる。過刺あり。故其報我る。宋に斯  
乞人あり。其上癩あり。身自由あり。と云々。賢人あり。曰。此  
乞人を貧らむ。各々善を勉む。先代の為罪をなとせむ。且世  
の中ぬ乞人あり。心の賤者共のあり。愧れんと乞とせむ。乞

徐妙錦

明の中山武寧王。名に徐達あり。四人の女あり。姉ハ燕王に嫁す。燕王帝位に  
即時皇后とある。則仁孝文皇后あり。次ハ代王に嫁す。妃とある。其次の  
女を妙錦と云。美色あり。いざと乞人嫁せむ。其妹を安王の妃とされ。洪武  
の年。未だ諸藩困窮あり。己代王も獄に入らる。妙錦熟世の形勢  
を感づく。誓を立と嫁せむ。諸王も婚を求む。共皆拒と許さず。長姉





花本舗像模寫



趙遜妻を  
 求めんとて  
 誤りて二百兩を  
 老嫗に  
 買ふ



仁孝文皇后崩（のち）後（のち）文皇帝（のち）妙錦（のち）が美色（のち）あり。然（のち）も賢（のち）あるを（のち）使（のち）て聘（のち）しと后（のち）と（のち）王（のち）へん（のち）と（のち）内使（のち）女官（のち）を其家（のち）に遣（のち）しと。其旨（のち）を諭（のち）さしむ。妙錦（のち）病（のち）を言（のち）えと出（のち）む。女官（のち）其臥榻（のち）の下（のち）に往（のち）き視（のち）ま（のち）妙錦（のち）を衾（のち）を被（のち）し呻吟（のち）し居（のち）る。女官（のち）假病（のち）ありんと察（のち）し。叩頭（のち）しと命（のち）を受（のち）玉（のち）へと請（のち）けま（のち）己（のち）むるを（のち）詔（のち）せしと起上（のち）す。曰（のち）吾（のち）貞容（のち）よくもあ（のち）むと六宮（のち）の選（のち）み備（のち）へらる（のち）を（のち）免（のち）れ又（のち）非（のち）ず。と云（のち）る。係（のち）を女官（のち）跪（のち）と。審（のち）み其顔色（のち）容貌（のち）視（のち）ま（のち）清（のち）ら（のち）美事（のち）恰（のち）も天入（のち）の如（のち）し。急（のち）に帰（のち）と有（のち）のよ（のち）ふ奏（のち）しけり。妙錦（のち）を再命（のち）の（のち）あ（のち）ら（のち）ん（のち）るを（のち）恐（のち）ま（のち）。髪（のち）を剃（のち）と尼（のち）と（のち）さ（のち）む。天子（のち）此（のち）る（のち）戎（のち）使（のち）多（のち）し重（のち）と別（のち）に皇太后（のち）を（のち）立（のち）玉（のち）ハ（のち）む（のち）と（のち）か（のち）ね。天子（のち）崩（のち）と後（のち）又（のち）初（のち）の容（のち）の復（のち）し（のち）係（のち）ぞ。宣德（のち）年（のち）の初（のち）に張太后（のち）妙錦（のち）の行（のち）に潔（のち）なる（のち）戎（のち）使（のち）及（のち）

王（のち）に女官（のち）を以（のち）て京（のち）に徵（のち）む。道の程（のち）の中使（のち）命（のち）しと守（のち）護（のち）せし（のち）也（のち）。既（のち）に宮（のち）の入（のち）と太后（のち）の見え（のち）自徐達（のち）が第二（のち）の女（のち）と称（のち）しと肅拜（のち）す。其形義（のち）端正（のち）と。一歩（のち）も違（のち）へらる（のち）。太后（のち）以下（のち）皆（のち）尊敬（のち）し玉（のち）に贈物（のち）多（のち）くわす。けり宮女（のち）共（のち）に各（のち）竊（のち）み語（のち）と曰（のち）此人（のち）を（のち）命（のち）を（のち）録（のち）しと。皇太后（のち）み（のち）た（のち）り人（のち）ありと。心を置（のち）あ（のち）る。後正統（のち）年（のち）の中（のち）に身（のち）ま（のち）り（のち）けれ（のち）鍾山（のち）地（のち）なる家（のち）の墓（のち）所（のち）に葬（のち）す。始（のち）燕王（のち）の師（のち）京（のち）に至（のち）す。時（のち）建文帝（のち）明（のち）自焚死（のち）し玉（のち）に妙錦（のち）を（のち）使（のち）て曰（のち）及（のち）に軍（のち）至（のち）るも。帝（のち）之（のち）殿（のち）上（のち）に坐（のち）す。燕王（のち）を待（のち）玉（のち）に（のち）三（のち）上（のち）を帝（のち）を（のち）さ（のち）しと。自天子（のち）と（のち）わ（のち）る。万（のち）一（のち）左（のち）わ（のち）る（のち）時（のち）に死（のち）し玉（のち）に（のち）遅（のち）か（のち）ど。何故（のち）遽（のち）に焚死（のち）し玉（のち）に（のち）やと云（のち）し。誠（のち）は見（のち）識（のち）も高（のち）きとる。

萬善類



義顯と鄞縣名の萬氏の女あり。祖父ハ萬斌高帝ハ從つて兵を起  
 指揮の官なり。北征北國討死す。其子萬鍾其職禄を承ぐ。即義顯  
 之父なり。是も遂國の難ハ死し。義顯ハ長兄萬武其跡を襲。是も亦  
 交趾地名死し。子有ら故其弟萬文を承ぐ。射龍將軍と名  
 づく。海賊を禦し海中死し。萬文ハ妻吳氏懷妊し居る。程なく男  
 子を産む。名を全と云。其時萬文ハ母を存生あり。嫂陳氏ハ子あり。義顯  
 盛年ハ至り。昏を求むる者多し。爲義顯家の漸々衰へるを  
 見く嘆し。曰吾家三代の間に四人も死す。皆骸骨之家ハ歸  
 らぬ。今發婦三人家をたれ。一人の孤を守立んとす。誠ハ祖宗の血脉を  
 世に孤入るなり。我ハ捨る不忍びず。其上我若嫁せば家の爲ハ一臂ハ成

失ふ如く。如く。悉く并さ。けり。家内も義顯を頼り。居  
 たり。強くも嫁を勧む。義顯日夜三人と力を盡せ。小兒を撫  
 育し。家を治め。年月を経く。全ハ已ハ成童。父の官を嗣ぐ。其時義  
 顯もづ。先祖以来の戦功。并ハ國の爲ハ死せし。其共を見り。如く。書  
 けり。全ハ與て。心を勵し。先祖以来の志を承續。下と教訓。後義  
 顯ハ七十歳あり。卒す。全其喪を勤る。母の如く。萬氏の子孫を是を祀  
 る。射龍將軍と坐を列ね。世に絶ゆる事なし。

沈雲英

沈雲英。長巷里地名の沈氏の女あり。父至緒。崇禎四年。武科武藝  
 の進士。雲英幼ハ父に隨ふ。京に往來し。騎射を能く。



九歳より始と論語を讀と。心付ての有り。終學を受んる。戒  
 請々ふ。期年ゆと。四書又と孝經女誡又通也。其外唐詩宋詞の  
 類一ふ。目を経れば。そのやう記憶しと忘る。そとて。塾師必従と。經  
 の難。死者を受んと請ひる。塾師まら。春秋胡氏傳を授る。明  
 朝の(三)春秋めと士を擇む。必胡氏傳を以と題と。其内又傳題  
 と云る。わも。混雜しと條理する。故。強記の者朝夕此傳題。或  
 研。究窮むと雖共。十五と忘失し。故。學ぶ者。多と此を難しと。  
 然る。ふ。雲英ハ。一ふ。指授を得れば。悉。通曉しと。老師宿儒ゆ。そ。芬ら  
 ば。ず。り。崇禎十六ま。父道列の守備。守。要。害。の。雲英父。又隨と任。ふ  
 往。く。時。の。流。寇。道。列。を。侵。ふ。父。出。て。戰。ひ。麻。痺。驛。の。名。ぬ。賊。を。破。り

其渠帥を陣前斬る。賊を懼と。他列へ徙る。其時大雨  
 あり。然も至緒と。左體の割を被り居。血流と。鞞。鞞。の。馬。上  
 自由。る。至。緒。の。燈。を。踏。む。馬。上。墜。ぬ。賊。の。奇。兵。を。こ。え。競。ひ  
 懸と。至緒を殺し。其屍を掠去れり。雲英其時二十歳あり。此を倅  
 と齊し。甲曹し。馬を跨り。十騎を帥と。賊の砦。弛。向。ひ。賊。の。隊。伍。整  
 と。る。矢。を。縱。横。に。斬。り。廻。り。二。十。餘。人。を。討。取。り。終。に。父。の。屍。を。奪。り。還  
 り。賊。大。に。駭。る。再。至。緒。の。屍。を。奪。り。時。を。り。惠。王。桂  
 王。明。の。吉。王。の。三。人。永。列。へ。走。り。と。ゆ。り。賊。等。此。三。王。を。追。懸。んと。必。其  
 上。雲。英。が。驍。勇。る。故。に。容。易。と。克。難。し。と。名。を。忽。其。地。を。引。取  
 也。其。時。王。聚。奎。湖。列。の。巡。撫。也。此。由。を。奏。し。降。勅。を。請。け。則



至猪の昭武將軍の旗を贈り。其祠を麻難驛に建てる。二子を召す。其時  
 監國子監の一人を雲英を遊撃將軍とす。父の士卒を悉く領せしむ。其時  
 雲英が夫賈萬策を荆列の南門を守り居る。が荆列も流賊の攻破  
 られ。萬策の節死する。雲英此由を告ぐ。號呼す。吾命の絶こ  
 りと云く。哭しく詔を辭す。父の柩を扶く家へ歸る。其後清の師西陵  
 地を渡す。時雲英川の身を投死せんとしけるを母らうとて救ふ。命  
 助す。と云く。負く。世を渡す。難死ぬ。家祠の傍に塾を立く。一族  
 中の児共を訓ける。其族中の胡氏傳を習ふ者。皆雲英を師とす。其  
 順治十七年白洋海上に。朝を觀歸す。歎す。曰吾久しく此土に  
 居る事能はると云く。塾中の児を皆家へ返す。沐浴し。臥して。頃と

卒しけること。

賣腐人女

毫列の豆腐を賣る業と居る夫婦の者あり。本々北京の産あり  
 一が仇を避く南方へ來り。毫國に住る。十年餘を歴く二百金を貯  
 けり。女子一人あり。年十五六。美色あり。且て同邑に。聘せんとす。尚  
 者多し。女の父母計り。曰吾本北人。先祖の墳墓親戚皆北方に  
 あり。行々を故郷へ還らんと欲あり。然るに今此地の女を嫁せむ。往來甚  
 遠く。便あり。已に故郷を去り。十年の餘あり。仇も亦盡ぬ。然れば  
 今女を具しく故郷へ還す。親に家を擇む。女を嫁せんと欲あり。如何と云  
 けり。婦もむと同一。頃と旅の装。驢二匹雇ひ。婦と女とを乗せ。父と



歩行しと道を急ぎたぐる。二十里許も歩くと此馬を騎く弓刀を  
 携ふ。西人の者不行遇する。彼者共女的美貌あるを視て強く女を抱て  
 己が馬に掛上げ策を加へて馳去る。夫婦ののり大に駭死追懸て走す。見  
 哀く女を乞へ共賊許さず。夫婦の者の曰吾五十金の貯あり願ふ其金ゆと  
 女を贖んと乞ふれども猶許さず。次第に金を言く。終に二百金を出せり。  
 賊其金を取ると女をも返せしと乞ふ。夫復つ死乞と悲けしを賊  
 刀を抜く斬殺す。婦は息をえと亦走つた。泣啼ぶを是も同く殺し。又  
 馬を弛く數十里を行ふ。道の傍に井あり。女伴と口唱けり。云  
 けれ。賊共少女子恐る。不足らばと必ひ馬を下し。扱水を汲んとせし。及  
 其畧ぬ。女指さす。前の高樓の家は汲器ありと云けれ。實もそ入の

汲器を借ぬ。往多路が女を今入の賊の少し忘る。或伺く。井の中へ躍入る。  
 賊周章居る。處へ入の賊已に汲器を借来せり。此形勢をみる。急ぎ汲器  
 繩を引く。井へ入る。女を縛し。上る。賊頃と引上げ。縛を解く。復繩を  
 下し。井中の賊其繩をひ。結付々。時上の賊身を屈め。手を垂と  
 力を引く。引上るとも女をさる。力に任せ。後より賊を突く。誤  
 ち井の中へ突墜し。まぐさる。賊の馬は跨り。高樓の家へ馳往り。有る  
 事共を詳に悟り。村人皆女を随ひ来り。井中を視る。果しと二  
 賊あり。引上視ると。一人の頭を突折し。死す。今入る。死せざる。女  
 賊の刀を抜く。忽其首を斬落し。叔賊の囊を搜り。索めし。奪り。二  
 二百金其儘あり。村人女を伴し。其列の守り。詰る。女賊は逢し。母





賈腐人の女  
 謀を定めて  
 二賊を井中の  
 殺し父母に  
 仇を報む





の死せしむる兵刃仇をむくいし形勢共の始末を詳に訴へけり。守其金銭  
 吟味し叔人を遣はし。其父母の屍骸を尋ねせり。女の言少しを  
 違ひりけり。守大の奇と稱し。女に向て曰。汝父母は離れ。入故郷に  
 久し。共何方へ身を寄すべし。吾幸に子あり。汝を吾子と。誓を擇り  
 汝を嫁せんと欲す。いと云ふ。女は皆首し。謝し。其言は随ひ。守  
 は。何某と云者を誓と定め。女の金を倍し。粧奩とく。嫁せしめけり。  
 此事を傳へ聞者。女の奇節と守の盛徳と。感とく。又感とく。康熙年  
 中のこの事なりとぞ。

益都人妾

益都の西鄙地。何某と云者。妻を初め。甚美あり。嫡妻嫉妬  
 しく。日々。篋を加へ。非道よりて。けり。妾少しを怨める。氣色を  
 けり。或夜強盗十餘人。其家におり。夫婦の者。怖と戦え居たり。  
 此妾暗き所より。杖一ツ提り。出来。真先。進。賊三四人を忽に  
 撃。暗す。自餘の賊。恐れ。皆遁奔る。妾声を。日。鼠の如く。奴原吾  
 杖を。汚。足。足。命を預かり。重く。事。命を失  
 せんと。罵。賊。後主。何と。斯と。あ。同。其父の少  
 林寺の武術を受け居り。一。悉く。女。傳へ。故。此妾を。百人の敵と  
 あり。有。何故。と。妻。非道。員。を。同。妾。者。ハ。ク  
 てある。苦。と。答。是。後。夫。婦。共。此。妾。を。怪。一。里



の者のも重おも九ト敬うやまひ多おほしとそ。

尾定

奇説排門録卷之六

東都書肆中金堂藏板書目

椿説弓張月

五編揃  
三十卷

曲亭馬琴作  
前北齋画

夢想兵衛胡蝶物語

前後  
九卷

全  
歌川豊廣画

隅田川梅柳新書

六卷

全  
前北齋画

稚枝

鳩  
五卷

全  
歌川豊國画

勸善常世物語

五卷

全  
溪齋英泉画

曲亭水滸傳

五編揃  
廿五卷

全  
歌川國安画







相馬日記

全四冊

高田典清稿  
北條時鄰注

新著聞集全八冊

その作者と稱ふせばくわんと  
其文雅ありて觀る小同離せば珍奇  
妙談實小法著國の冠たるあり

橘菴漫筆

前編四冊  
後編四冊

田仲宣述

三養雜記

全四冊

山崎美成著

京襍乃記

全三冊

曲亭馬琴作

東都書肆

兩國米澤町三丁目、金屋又兵衛板

大坂書林

心齋橋通り北久太郎町

河内屋喜兵衛

同

轉勞町

河内屋茂兵衛

同

柏原屋儀兵衛

同

南久室寺町

河内屋源七郎

同

南久太郎町

秋田屋市兵衛

同

轉勞町

伊丹屋善兵衛

同

兩國米澤町三丁目

金屋又兵衛版

江戸書林



